

公表	事業所における自己評価総括表		
----	----------------	--	--

○事業所名	放課後等デイサービスぞうさん室住教室		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ~ 2025年 3月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 3月 15日 ~ 2025年 3月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童や保護者との信頼関係	児童の様子や保護者の方々から伺った情報を、職員間で細かく情報共有を行っている。いずれの職員が対応したときでも、支援や関わり方に統一性を持たせることで安心感に繋がるよう工夫している。	定期的な面談や担当者会議だけではなく、日頃のやり取りの中で見えてくる検討事項などをくみ取りながら、必要に応じての面談・相談の頻度を増やしていきたい。 引き続き、関わる職員を固定化せず、いずれの職員とも深く関わっていけるような対応を行っていく。
2	多種多様な活動、満足度の高いサービス提供	主活動に加え、専門的支援実施を取り入れている。それぞれにめあてや狙いを設定し、成長や興味の幅拡大を意識している。 余暇の時間には、多数の児童の間で流行っている遊びを取り入れるなどしている。児童だけで遊ぶのではなく、職員を配置して遊びの構造化を図り、遊びの中でも気づきや成長を促す工夫をしている。	児童のニーズ、ご家族等からのニーズを的確に汲み取り、事業所の中で取り組める方法や支援を織り交ぜながら満足度と質の向上を図っていく。 画一的な支援や活動とならないよう、常に柔軟な発想を意識して職員間での会議や打ち合わせを行っていく。
3	定期的な保護者交流会	これまで、開所して1年目ということもあり、交流会・職員紹介・活動紹介・親子で活動体験などを実施してきた。日頃の児童の様子をスライドショーで見て頂いたり、実際に体験することで、どのような様子で過ごしているのかをイメージしやすいように工夫してきた。交流会では、同じ地域のご家族ごとに座席を配置するなどして、交流のしやすさに配慮	今後は、ペアレントトレーニングや研修会を希望する声も多かったため、開催方法などを検討して実現していきたい。 職員紹介や活動体験などは、新規契約のご家族を対象に行うなどしていく方針で検討中。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の要素を取り入れた活動や行事の少なさ	地域交流について既存の児童やご家族等からのニーズをくみとりきれていない。 地域交流となる行事等の情報収集が不十分である。 地域交流に焦点を当てた事例検討が少ない。	地域交流を取り入れた活動やイベントについて、関係機関や周囲の関係者等から具体的な事例や取り組みについて伺うなどして情報収集に注力していく。 日頃から地域の案内や問い合わせ、情報開示などに目を向けていく。
2	きょうだい向けのイベントや、きょうだい同士の交流の機会が少なくきょうだいへの支援が十分ではない	ご家族として捉え、きょうだいという単位でイベント・行事を組み込んでいかなかった。 本人への支援についての相談や検討の比重が重くなってしまっており、きょうだいへの支援を含めた聞き取りが不十分であった。	面談や担当者会議などを行う際に、本人のことに加えてきょうだい支援についてのニーズを伺うようにする。 日頃から本人ときょうだいとの関係性などを確認するようにし、どのような支援を取り入れることが出来るのか検討を重ねていく。
3	ご家族等からの問い合わせに対し、内容によっては返答が遅くなることがある	即時的な判断がつかない場合は、一度持ち帰り管理者や職員間での話し合いを行ってから決断を下している。判断に迷う場合、改めてご家族等と連絡調整を図り、問い合わせ内容について真意の部分を伺うなどするため、返答が遅れることがある。	どのような問い合わせや相談なのか、ご家族の意向を的確に汲み取り、丁寧且つ端的にまとめながら検討を進めていく。 お待たせしているご家族等の思いに配慮し、迅速な対応を心がけていく。